優秀賞

日日是好日

鳥取大学医学部四年（鳥取県）
吉岡　美加子

茶道との出会いはいつだっただろうか。日本三大菓子・茶所である松江で生まれ育ったこともあり、出会った時期が思い出せないほど、和菓子とお茶は私の身近にあるものだった。小さいころ、母に連れられて松江城大茶会というイベントに参加したことを覚えている。正座で足がしびれるものの、甘い和菓子とお抹茶を楽しむことが出来る、子ども心に嬉しいイベントだった。

幼いころからずっと身近にお茶があったにもかかわらず、茶道のお稽古を始めたのは大学に進学し茶道部に入ってからだった。今までぼんやりとしか理解していなかった茶道の作法を先生方に丁寧にご指導いただき、些細な所作にちりばめられた心配りに深く感動した。毎回お稽古に出てくる上生菓子はとても季節感があり、それを見て、日々のなかの些細な季節の変化に気がつくことも多くなった。お菓子と抹茶だけでなく、お道具や掛け軸、花などを拝見することも覚えた。

茶道部に入って半年ほど経ったころ、「日日是好日」という映画が公開された。主人公が茶道を通して人生において大切なことを学んでいくというストーリーだ。当時茶道部に入りたてだった私は、公開後すぐに観に行った。茶道を習いたての主人公に、自分も四月はこんな感じだったと微笑ましく思ったり、気が付いていなかった茶道の心にそうだったのかと驚いたりと、とても勉強になり、心温まる良い映画だった。なかでも印象的だったのが、樹木希林さんが演じられていた先生の二つのセリフだ。

「たとえ何度同じ亭主と客が集まって、茶事を開いたとしても、その日と同じようには、二度とならないんですよ。一生に一度限りだと思って、おやりください」

「今年も初釜がやってまいりまして。毎年毎年同じことの繰り返しなんですけども、最近思うんですよ。こうして同じことができるってことが、なんだか、幸せなんだなって、ねえ」

タイトルである「日日是好日」は、そのまま読むと、毎日が良い日だ、という意味だ。人生において、全ての日は二度と帰らないかけがえのない一日である。過ぎゆくときに思いをはせ、今、この一服をいただく一瞬を心から心地よく、楽しんで過ごせるように。茶道にはそのような想いが込められているのではないだろうか。

茶道を始めて二年。新型コロナウイルス感染症が流行し、皆が楽しみにしている様々なイベントが次々に中止となった。毎年大学の近くで開かれている桜まつり。夏祭りや花火大会。松江城大茶会も、去年は中止となってしまった。季節を感じるイベントに心躍るのは、次はいつになることだろうか。

マスクをしていない頃、梅雨時の雨の香りを感じるのが好きだった。風の温度に季節の移ろいを思うことも好きだった。マスクで顔を覆われてしまえば、頬で風を感じることもなくなった。金木犀の甘い香りも、マスク越しだと薄れていた。外に出ることに罪悪感を覚え、用事が済めば急ぎ足で家に帰る日常で、ゆっくりと四季を感じる時間はだんだんと減っていったように思う。

それから約一年が経ち、一時は中止となった学校の部活動も、再開できるようになった。久しぶりの部活動でいただいたお菓子は「花見団子」。桜を見に行くことも無かった今年、桃色と若草色のお団子に久しぶりに春の訪れを実感した瞬間だった。

季節を室内で、目で見て感じることが出来る和菓子は心を和ませる。どんな世の中であったとしても、茶道の精神は変わらずそこにあり、茶道に触れれば、相手の思いやりに気がつく。自分のために心を込めてお茶を点て、もてなしてくれる人がいる。なんて嬉しいことなのだろうか。コロナの中で感じていた人恋しさが消えていった気がした。

私にとって茶道とは、かけがえのない日常に思いをはせることである。いつもと同じ所作とお点前に心を落ち着かせ、変わる季節や世の中を思う。人と人との距離が離れ、顔を見ることも、楽しく話に花を咲かせることも難しい時代だ。しかし、言葉を交わさずに心を通わせる方法も、何気ない瞬間をかけがえのないものとして尊ぶ方法も、茶道は私たちに教えてくれる。

再びマスクを外してお稽古ができる日がいつになったとしても、茶道の精神は途絶えることなく引き継がれていくことだろう。

このコロナの流行で、今までの毎日が当たり前ではなかったということを改めて感じた。次いつこの人に会えるだろうか。次いつこのようなお茶会が開けるだろうか。毎日を大切にする茶道の心はこのような時代であるからこそ、大切にされるべきだ。

日日是好日。お稽古ができることに感謝して、これからも励んでいきたいと思う。